

徳島県美波町日和佐浦地区における景観特性に関する研究

胡 文強・渡辺 公次郎・塚本 章宏・近藤 光男

A Study on Landscape Characteristics of the Hiwasa-ura Historical District, Minami Town in Tokushima Prefecture

Wenqiang HU, Kojiro WATANABE, Akihiro TSUKAMOTO and Akio KONDO

Abstract: The purpose of this study is to show the landscape characteristics of the Hiwasa-ura historical district in Tokushima Prefecture. From the results of the investigation about actual landscape and building condition, we made the landscape element data. Using these data, we calculated the index of landscape element each street. Finally, we showed the character of street landscape based on the index.

Keywords: 歴史的市街地 (historical urban area), 街路景観 (street landscape), まちづくり (community based urban planning and design)

1. はじめに

日本には、京都や奈良といった、広く人々に価値が認識されているまちなみが多く残されており、重要な観光資源にもなっている。その一方、地方都市には、その地域の歴史と文化が反映されたまちなみが、消滅の危機に瀕している中、まだ残されている。今後も続いていく人口減少社会の中で、こういったまちなみを、地域資源としてどのように継承していくのか。持続可能な地域を実現するためにも重要な課題である。

地域に残る歴史的なまちなみを資源と捉え、その活用を目的としたまちづくり計画を策定するためには、その地域の景観特性を把握した上で、具体的な取り組みに展開する必要がある。本研究では、その第一段階として、地方都市に残る歴史的まちなみの中から、徳島県美波町日和佐浦地区を取り上げ、この地域の景観特性の把握を行う。

胡 文強 〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1

徳島大学工学部建設工学科

Phone: 088-656-7612

E-mail: kojiro@tokushima-u.ac.jp

2. 研究対象地域

図1に日和佐地区の位置を示す。徳島県南部の沿岸域に位置し、かつては漁業や海運で栄えた地域である。この地域には、独自のまちなみ景観が残っているが、人口と世帯数が減少する傾向にある。図2によると、高齢者人口比率が増加しており、図3によると、世帯数が激減していることが分かる。今後も、地域を存続させるためには、地域資源を有効に活用したまちづくりが必要である。本研究では、図1に示す日和佐地区の中でも特に歴史的まちなみが残る日和佐浦地区（点線部）を対象とする。

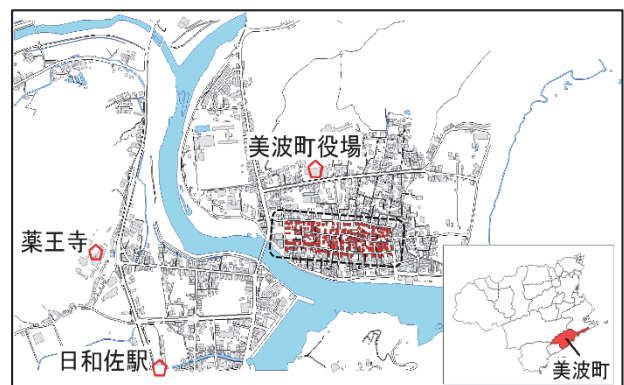


図-1 美波町日和佐地区

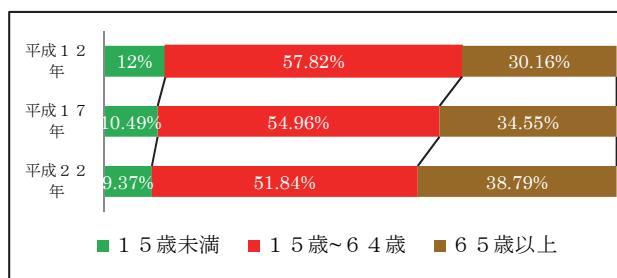


図-2 日和佐浦地区の人口変化

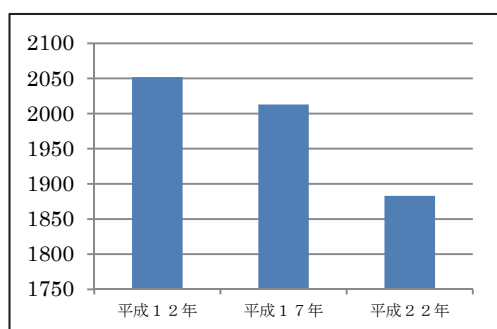


図-3 日和佐浦地区の世帯数変化

3. 景観特性の分析

3.1 現地調査

本研究で扱う景観は、街路から見る事ができる景観とする。まず、現状の景観の把握するために、現地調査を行った。

現地調査では、各交差点から見た全ての街路と街路から見える全建築物の正面写真を撮影した。この資料を基に、建築物の歴史的要素として、出桁、厨子づくり、格子、ミセづくりの有無を調査した。

図4に、出桁、厨子づくり、格子、ミセづくりの例を示す。出桁とは、せがいつくりとも呼ばれ、屋根の軒を深くするために、軒桁を壁の外に出す構法である。厨子づくりとは、天井高の低い2階（厨子二階）が付いている建築をいう。ミセづくりとは、住宅の軒先に設けられた可動式の台のことである。蓐張（ぶちょう）ともいう。晴天時には、台を下ろして漁具の手入れや腰掛けとして利用し、雨天時には、壁面に収納することで雨戸として利用されていた。徳島県南部の漁村集落で見られる建築様式である。



図-4 出桁、厨子づくり、ミセづくりの例

調査の結果、ミセづくり 2 軒（1%）、格子 30 軒（16%）、厨子づくり 22 軒（11%）、出桁 94 軒（50%）であった。なお、調査対象建築物は全 187 軒である。

3.2 GIS によるデータ化

次に、GIS を用いて調査した結果をデータ化した。ここでは、建築物ごとに景観特性要素として、出桁、厨子づくり、格子、ミセづくりが、存在する場合を 1、存在しない場合を 0 として属性データを作成した。

図5に、各建築物の出桁の有無を示す。図5によると、この地域では半数程度の建築物に出桁が使われている。

図6に、各建築物の厨子づくりの有無を示す。出桁は全域に分布していたのに対し、厨子づくりは、地区の中心部に多く分布している。

図7に、各建築物の格子の有無を示す。この地域の格子は、柱間から外に突出して設置されているものが多い。図7によると、格子がある建築物は全域に分布している。

図8に、各建築物のミセづくりの有無を示す。徳島県南部地域の独自の建築様式であるが、対象地域内では2軒しか残っていなかった。対象地域が若干異なるが、1994年の調査では、奥河内本村地区と日和佐浦地区に19軒のミセづくりを持つ住宅が残っており（阿波学会、1994年）、今後の保存活用を検討する必要がある。

3.3 景観特性の分析

対象地域内の景観特性を把握するために、街路



図-5 出桁の有無



図-6 厨子づくりの有無



図-7 格子の有無



図-8 ミセづくりの有無

i ごとに、景観特性値 S_i を計算した。 B_i は街路 i に面する建築物の数、 L_i^1 は街路 i に面する出桁がある建築物の数、同様に、 L_i^2 は厨子づくり、 L_i^3 は格子、 L_i^4 はミセづくりがある建築物の数である。

$$S_i = \frac{L_i^1 + L_i^2 + L_i^3 + L_i^4}{B_i}$$

4. 景観特性の考察

建築物ごとに、景観特性の数を合計したものを図 9 に、図 10 に街路ごとに計算した S_i を示す。図 11 に $S_i=0.1\sim0.5$ 、図 12 に $S_i=0.5\sim1.0$ 、図 13 に $S_i=1.0$ 以上の街路の写真を示す。

$S_i=0$ の街路は、街路に面する建築物に景観特性要素が存在しないことを示す。対象地域内には 2 カ所存在した。

$S_i=0.0\sim0.5$ の街路は 12 カ所存在した。対象地域の東西に加え、中央部に分布している。これらの地域は、比較的新しい建築物に建て変わっており、歴史的景観はそれほど多く残っていない。現地調査から、本研究の対象地域の大半は住宅地であり、このカテゴリーの地区も、住民が生活している建築物が多い。そのため、周囲の景観との調和を図りつつ、観光地とは別の、良好な住宅地として維持していく必要がある。

$S_i=0.5\sim1.0$ の街路は 23 カ所で、このカテゴリーの街路が最も多く存在している。図 12 を見ても、歴史的景観を残す建築物と、最近の建築物とが混在している地域が多い。 $S_i=0.0\sim0.5$ の街路の地区とは違い、ある程度、歴史的景観を残していることから、今後は、各種建築規制・誘導などにより、積極的に景観の保全を図る必要がある。

$S_i=1.0$ 以上の街路は 11 カ所存在した。図 13 を見ても、この地域の特徴が反映された歴史的景観が残されている街路である。対象地域の中心部やその周囲に存在しており、これらの地域を中心に保全地区指定を行うなど、積極的な歴史的景観の保全が必要である。しかし、現地調査からこの地

域には空き家も多く残っている。図3でも示されているように、世帯数が減少しており、景観保全に加えて定住人口増加も大きな課題である。

5. まとめ

本研究では、徳島県美波町日和佐浦地区を対象に、街路から見える建築物の現状を調査し、そこから景観特性を把握し、街路ごとに景観特性値を計算した。この結果から、街路を3つに区分し、それぞれの景観特性を考察した。

この地域には、特徴的な歴史的景観が残っているものの、空き家も多く、人口減少も著しい。時間とともに、人の暮らしの変化に合わせて建築物やまちなみも変わっていくことから、今後は、可能な限り現在残されている歴史的景観を維持しつつ、地元住民にとっても暮らしやすい地区整備が必要である。



図-9 建物の要素数

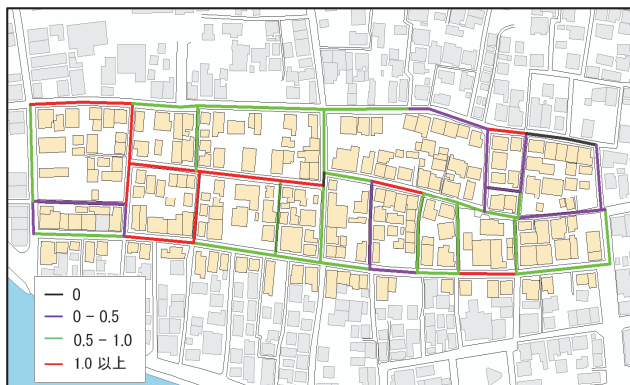


図-10 景観特性値 S_i の計算結果



図-11 $S_i=0.01\sim0.5$ の街路



図-12 $S_i=0.5\sim1.0$ の街路



図-13 $S_i=1.0$ 以上の街路

参考文献

阿波学会民家班（1994）：「日和佐町の民家」、阿波学会研究紀要第43号